

台湾の歩み

150711121 吉田柚希

1章 日本統治下の台湾

▶ 1節 台湾の合併

ア) 1894年（明治27年）日清戦争

→朝鮮の支配権の争奪戦

i) 日本は外国との全面戦争初

ii) 朝鮮から満州を舞台に

イ) 1895年4月17日 (明治28年) 日清講和条約

→全11条

- 要点→
- i) 清は朝鮮が独立自主国と承認
 - ii) 日本、遼東半島、台湾、澎湖諸島を割譲
 - iii) 軍費賠償金の庫平銀2億両を日本に支払い
 - iv) 開市開港において日本人の製造業への認定
 - v) 清が条約を履行し、その担保で日本軍が威海衛を保障占領

ウ) 三国干渉（ロシア・フランス・ドイツ）
→外務省の林薫外務間次官を訪問

i) 三国の主張

- 日本の遼東半島の占領は、北京への威嚇
- 朝鮮の独立を有名無実にする
- 遼東半島の放棄

ii) 結果

→日本は遼東半島を清に環付

→獲得した領土→台湾と澎湖諸島のみ

iii) 台湾住民の強い反発

→台湾の領有権は、国際法的に清国から日本に移行

▶ 2節 台湾総督府の設置

ア) 日本軍は容易に台湾北部を制圧

→台湾全域の制圧も容易と予想

i) 南進作戦は苦戦

ii) 多くの軍人を動員

→台湾住民は抵抗

iii) 5か月後、台湾全島の鎮圧

イ) 台湾住民の死者 1万4千人

日本軍の死者 278人

ウ) 台湾の武力抵抗に対して鎮圧開始

エ) 言語問題

i) 日本政府→台湾人は中国語が
常用語と認識←誤認識

ii) 通訳政治の非効率→様々な誤解や、混乱

オ) 台湾総督に法律を制定し権限有

→樺山級裁判所を設立

→1897年 台湾総督府特別会計法制定 (財政権)

▶ 3節 台湾での土匪

ア) 台湾住民の自由選択

i) 台湾で日本国籍の取得（日本国民）

ii) 所有の財産を売却し、台湾を退去

→1895年から1897年の2年間で決定必須

イ) 北部や中部の「土匪」の降伏を実現

土匪：その土地に不利益な集団

ウ) 「台湾人」としての意識強化

→反感をかい、鉄血政策に（長期的課題）

2章 国民党独裁から民主化へ

▶ 1節 日本支配終了から国民党支配へ

ア) 1945年8月15日 太平洋戦争終了

→ポツダム宣言受諾

i) 昭和天皇の「玉音放送」台湾で放送

イ) 台湾の接收の現実化

→台湾総督府の権威低下

ウ) 1946年 台湾在留日本人引き上げ開始
→昔：台湾の行政機関の中枢は日本人
→今：中国人の手で運営

蒋介石が台湾調査委員会を設置

エ) 1947年 二・二八事件
→台北市内でヤミ煙草売りの取締

中華民国へ怒り爆発

2節 国民党政府の農地改革

ア) 1949年 国共内戦勃発
→共産党勝利 北京で中華人民共和国成立
→国民党政府 台湾に逃亡

イ) 国民党政府は台湾社会をコントロール

ウ) 1950年以降 農地改革を断行
→共産党の「土地改革」に対抗

農地改革→「三七五減租」
収穫物の小作料を一律37.5%に減免

「公地放領」
小作農を減量

3節 台湾社会への変容

ア) 1960年 台湾社会は工業社会に変化
→開発独裁

イ) 1965年 蔣経国が総統に

ウ) 1970年 蔣経国が計画→「十大建設計画」
→農業・軽工業主体から重工業主体に

工) 1970年 民主化運動が活発に

才) 1972年に「日中共同声明」締結
→ 中華民国は対日断交を宣言 (中華民国)

→ アメリカは中華人民共和国を承認
台湾は国連の議席を喪失

工) 蔣介石 88歳で老衰 死去

3章 中国と台湾

1節 10年サイクルで攻守入れ替わり

ア) 鄧小平の改革開放政策→中国は台湾に接近
内容：香港と同様「一国二制度」

「一国二制度」の意味：一国の中に複数の政治制度
経済制度が存在

イ) 台湾の対応

三不政策（無交渉・無談判・無妥協）

→慎重に

ウ) 1989年 天安門事件：民主化問題で中国学生と警察衝突

→民主化少し後退

1990年代は民主化により台湾の国際イメージ向上

→積極外交

2節 台湾問題とは

ア) 中国の台湾固執

1895年の日清戦争→台湾割譲

中国側：日本の侵略的行為

i) 台湾を回収の願望

イ) 中国の国家戦略→台湾問題は特別な地位

中国に台湾事務弁公室→台湾問題の全般取り扱い

3節 中国の枠組み・台湾の枠組み

ア) 1990年代新しい変化

「台湾は台湾」思考→主流化

イ) 中国側は歯止め政策

→「一つの中国の枠組み」

枠組み内：貿易可、投資の受け入れ、農産品の買取

ウ) 中国と台湾→「兩岸関係」

台湾には「大陸委員会」が存在：中国問題担当

4章 台湾の政治体制と文化状況

1節 確立した民主体制

ア) 1996年に間接選挙から直接選挙に
国民大会の職権拡大

イ) 頻繁に憲法修正→国民大会の規定変更

ウ) 国民大会の条文廃止→実質的な国会

2節 民主化が進む台湾と現状

ア) 2000年3月18日 総統選挙実施
→ポスト李登輝（国民党）をめぐり：「平和民主化」

台湾史上初の政権交代→民進党の陳水扁が辛勝

イ) 各代表から代表選出「超党派小組」を組織
→「全民政府」：内政での体制固め

ウ) 2004年の総統選→僅差で陳水扁再選

台湾は中国との経済関係強化
→中国なしに経済不成立の状況

エ) 2005年台湾統一地方選挙で民進党惨敗
→陳水扁の汚職疑惑で指導力低下

オ)2008年の総統選挙国民党有利に
→馬英九主席：歴史問題、領土領海問題
日本に厳しい姿勢

カ) 2008年3月22日 国民党馬英九總統に当選
→国民期待→経済情勢の悪化、尖閣諸島の日台関係悪化
馬英九、有効な解決策ない

キ) 2009年 民進党が台北で抗議デモ
→馬英九の対中政策に不満

ク) 2010年 民進党の主席選挙
→蔡英文圧勝

2012年 総統選挙 馬英九再選

2016年までの4年間→中国との安定維持、TPPへの参加

ケ) 2016年1月16日 台湾総統選挙

→独立志向の民進党勝利：蔡英文

→初の女性総統、8年ぶりの政権交代

コ) 蔡英文の策略

→中台関係の「現状維持」

→民意に沿ったの取り組み

3節 日本と台湾の関係性

ア) 台湾と日本の関係性は難しいテーマ

イ) 日本の台湾問題意識

→ 「中国の主張に配慮」

ウ) 台湾日本統治→日拠、日治の二種類

日拠：違法性を強調

日治：合法性を強調

結論

日本の台湾問題→中国の主張に配慮

中国：一つの中国

台湾：二つの中国

自分の意見：二つの中国に賛成
台湾の体制不履行に、民主化の後退